

北海道畑作農家のたまたまてばこ

新登場

畑作用
殺菌剤

ミリオネア[®] フロアブル



技術資料

はじめに

ミリオネア®フロアブルは、住友化学によって開発された新規殺菌成分「インピルフルキサム」を含有する新規殺菌剤です。2014年より一般社団法人日本植物防疫協会を通じて畑作物、野菜、果樹の各種病害に対する委託試験を開始し、2020年2月に農薬登録を取得しました。本資料は現在までに得られた知見を取りまとめたものです。本剤をご使用いただく際の参考としてご活用いただければ幸いです。



有効成分および物理化学的性状

製品名 ミリオネア®フロアブル

登録番号 第24350号

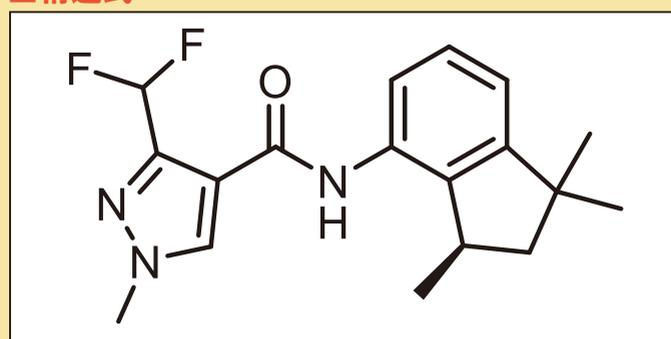
有効成分 インピルフルキサム (ISO名) 37.0%

医薬用外劇物

■有効成分および物理化学的性状

ISO名	インピルフルキサム
含有量	37.0%
化学名 (IUPAC名)	3-(ジフルオロメチル)-N-[(R)-2,3-ジヒドロ-1,1,3-トリメチル-1H-インデン-4-イル]-1-メチルピラゾール-4-カルボキサミド
委託試験コード	S-2399
LogPow	3.65 (25°C)
水溶解度	16.4mg/L (20°C)
蒸気圧	3.8 x 10 ⁻⁸ Pa (20°C) 1.2 x 10 ⁻⁷ Pa (25°C)
作用機作	FRACコード:7 コハク酸脱水素酵素阻害剤 (SDHI)

■構造式



■安全性

人畜毒性 医薬用外劇物

*製剤のデータ

試験項目	供試動物	結果
急性毒性(経口)	ラット	300mg/kg < LD ₅₀ < 2000mg/kg
急性毒性(経皮)	ラット	LD ₅₀ > 2000mg/kg
刺激性(眼)	ウサギ	刺激性なし
刺激性(皮膚)	ウサギ	刺激性なし
皮膚感作性	モルモット	感作性なし

水産動植物への影響

*製剤のデータ

試験項目	供試動植物	結果
魚類急性毒性	コイ	LC ₅₀ (96h): 0.18 mg/L
ミジンコ類急性遊泳阻害	オオミジンコ	EC ₅₀ (48h): 3.2 mg/L
藻類生長阻害	淡水緑藻	ErC ₅₀ (0-72h): 130 mg/L

■有用生物に対する影響

種類	試験項目	結果
セイヨウミツバチ(成虫)	急性接触毒性	影響なし(原体のデータ)*
セイヨウミツバチ(成虫)	急性経口毒性	影響なし(原体のデータ)*
蚕(4齢)	急性経口毒性・残毒試験	中毒症状なし†
タイリクヒメハナカメムシ(成虫)	急性毒性	影響なし*
チャバラアブラコバチ(成虫)	急性毒性	影響なし*
ミヤコカブリダニ(成虫)	急性毒性	影響なし*

種類	試験項目	結果
スワルスキーカブリダニ(成虫)	急性毒性	影響なし#
リモニカスカブリダニ(成虫)	急性毒性	影響なし#
チリカブリダニ(成虫)	急性毒性	影響なし#
オンシツツヤコバチ(成虫)	急性毒性	影響なし#
マメコバチ(成虫)	急性毒性	影響なし#*

†ただし菌軽量化傾向・処理3日後以降の農薬給餌で影響なし⇒注意事項に「農薬にかかった場合3日間は給餌しない」記載
 出典: *登録申請用データ、#住友化学社内試験、*青森県植物防疫協会委託試験

目次	はじめに	P1
	有効成分および物理化学的性状	P1
	特長	P2
	抗菌スペクトラム	P2
	病原菌の生活環と作用	P2
	防除特性	P3、P4

作物別紹介	てんさい	P5、P6
	たまねぎ	P7
	こむぎ(麦類)	P8
	ばれいしょ・まめ類	P9
	ねぎ・りんご・ぶどう	P10



ミリオネア®フロアブルの特長

1 北海道の主な畑作物(たまねぎ、まめ類*、てんさい、ばれいしょ、こむぎ)に幅広く使えます。
*豆類(種実、ただし、らっかせいを除く)および豆類(未成熟)を指す

2 てんさい/根腐病・葉腐病、たまねぎ/灰色かび病(白斑葉枯病)・小菌核病・灰色腐敗病、ばれいしょ/黒あざ病、こむぎ/赤さび病等の主要病害に対し安定した防除効果を示します。

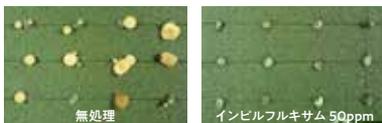
■抗菌スペクトラム

界/門	種(病害名)	EC ₅₀ (mg/L)
菌界/担子菌門	<i>Rhizoctonia solani</i> (AG1) (イネ紋枯病系) a	0.00077
	<i>Rhizoctonia solani</i> (AG2-1) (アブラナ科低温系) a	0.0061
	<i>Rhizoctonia solani</i> (AG2-2IIIB) (イグサ紋枯病系) a	0.0018
	<i>Rhizoctonia solani</i> (AG2-2IV) (テンサイ根腐病・葉腐病系) a	0.0029
	<i>Rhizoctonia solani</i> (AG3) (バレイシヨ黒あざ病系) a	0.0093
	<i>Rhizoctonia solani</i> (AG4) (苗立枯病系) a	0.00089
	<i>Rhizoctonia solani</i> (AG5) a	0.0014
	<i>Sclerotium rolfsii</i> (白絹病) a	0.0046
菌界/子のう菌門	<i>Ustilago maydis</i> (トウモロコシ黒穂病) b	0.00027
	<i>Sclerotinia sclerotiorum</i> (菌核病) a	0.015
	<i>Botrytis cinerea</i> (灰色かび病) a	0.0040
	<i>Botrytis allii</i> (タマネギ灰色腐敗病) b	0.00064
	<i>Venturia inaequalis</i> (リンゴ黒星病) b	0.0011
クロミスタ界/卵菌門	<i>Colletotrichum</i> sp. (炭疽病 [®]) b	7.2
	<i>Phytophthora infestans</i> (バレイシヨ疫病) a	>10

a: 寒天希釈平板法による阻害活性試験、b: 96ウェルプレートを用いた阻害活性試験 ※りんごより分離した*Colletotrichum gloeosporioides* (旧分類)を供試

病原菌の生活環とミリオネア®フロアブルの作用(菌核病菌の例)

高い子のう盤形成阻害効果

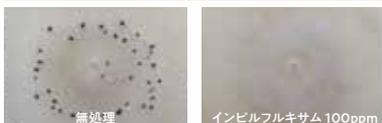


試験方法

接種: 所定薬量に希釈した薬剤に菌核病菌の菌核を1分間浸漬した。風乾後、菌核を水分を含んだオアシス(園芸用保湿剤)上に静置した。

調査: 29日後、子のう盤形成の様子を観察した。
2020年 住友化学(株) (社内試験)

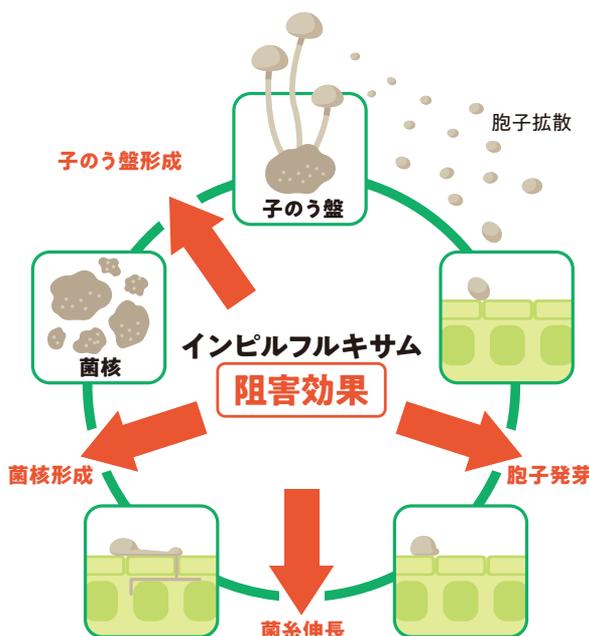
高い菌核形成阻害効果



試験方法

接種: 菌核病菌をPDA培地で25℃、4日間培養した。
処理: 菌糸が培地全体に伸長し、菌核が形成される直前に所定薬量に希釈した薬剤を十分量散布した。

調査: 処理7日後、菌核形成の様子を観察した。
2019年 住友化学(株) (社内試験)



高い孢子発芽阻害効果



試験方法

接種: 1.0×10⁴/mLの菌核病菌の子のう孢子懸濁液を薬剤含有YBA培地に5μL/スポット、滴下した。

調査: 23℃、暗所で12時間培養した後、子のう孢子の発芽の様子を観察した。
2020年 住友化学(株) (社内試験)

高い菌糸伸長阻害効果



試験方法

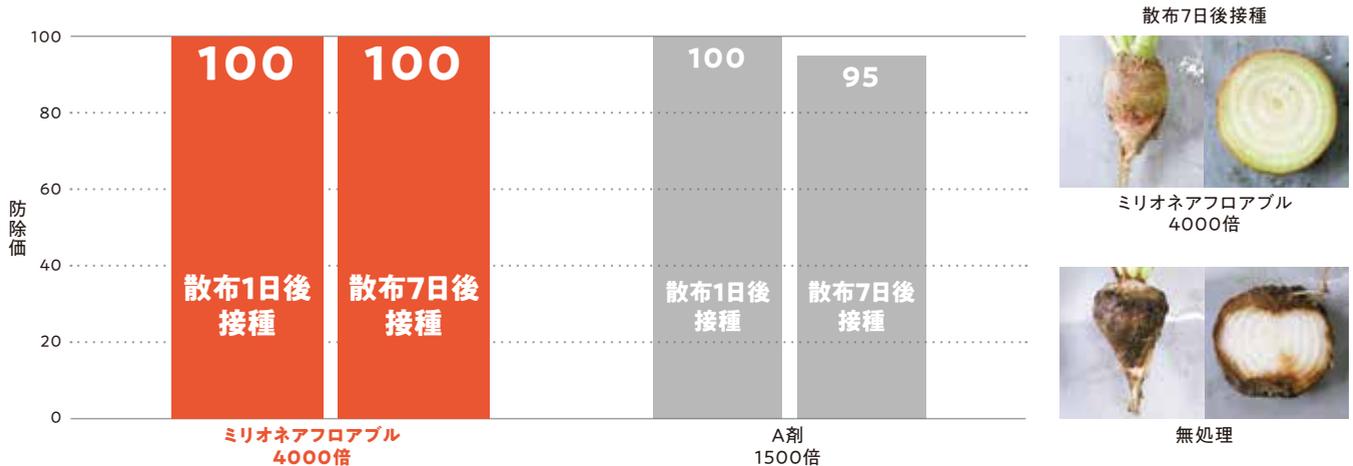
接種: 菌核病菌菌糸をコルクボーラーで型抜きし、薬剤を含有したYBA培地に植菌した。

調査: 25℃、暗所で18日培養した後、菌糸伸長の様子を観察した。
2020年 住友化学(株) (社内試験)

ミリオネア®フロアブルの防除特性

予防効果・残効性(テンサイ根腐病)

2019年 北興化学工業(株)開発研究所(ポット試験)



供試品種:カーベ2K314 7~8葉期苗(9cm丸ポット植え)

区制・反復:1区1ポット 4連制

処理日:5/9

接種日:5/10(散布1日後接種)、16(散布7日後接種)

調査日:5/23(散布1日後接種)、31(散布7日後接種)

処理方法:所定濃度の薬液(展着剤ハイテンパワー10000倍加用)を十分量散布した。

接種方法:土壌フスマ培地で培養したテンサイ根腐病菌を、ポットの土壌表面にばらまき接種した(0.5g/ポット)。接種2~3日間は湿室下(24°C、RH100%)に静置し、その後は発病室(24°C、RH90%)で管理した。

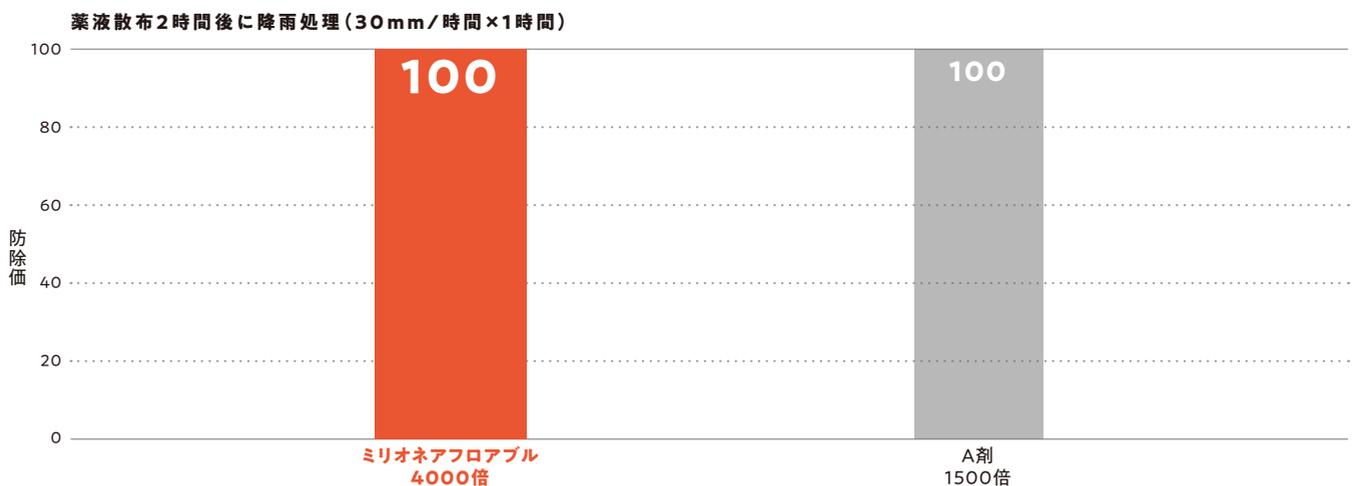
調査方法:各ポットの地下部の発病程度をてん研法にてんさい根腐病調査基準に準拠して調査し、発病度から防除値を算出した。

発病状況:散布1日後接種/無処理区の発病度100、散布7日後接種/無処理区の発病度96.7

➔ ミリオネア®フロアブルは予防効果、残効性に優れます。

耐雨性【降雨による影響】(テンサイ根腐病)

2019年 住友化学(株)健康・農業関連事業研究所(ポット試験)



供試品種:スタウト 根部肥大初期(ポット植え)

区制・反復:1区1ポット 3連制

処理日:11/20

接種日:11/28

調査日:2020/1/7

処理方法:所定濃度の薬液を十分量散布した。

降雨処理:薬液散布2時間後に降雨処理(30mm/時間x1時間)を実施した。

接種方法:フスマ培地で培養したテンサイ根腐病菌を株元に接種した。接種後は毎日加湿し(17時間/日)、温度は20~25°Cで管理した。

調査方法:地上部(葉柄部)を発病程度別に調査し発病度を求め、防除値を算出した。(地下部の発病はなかった)

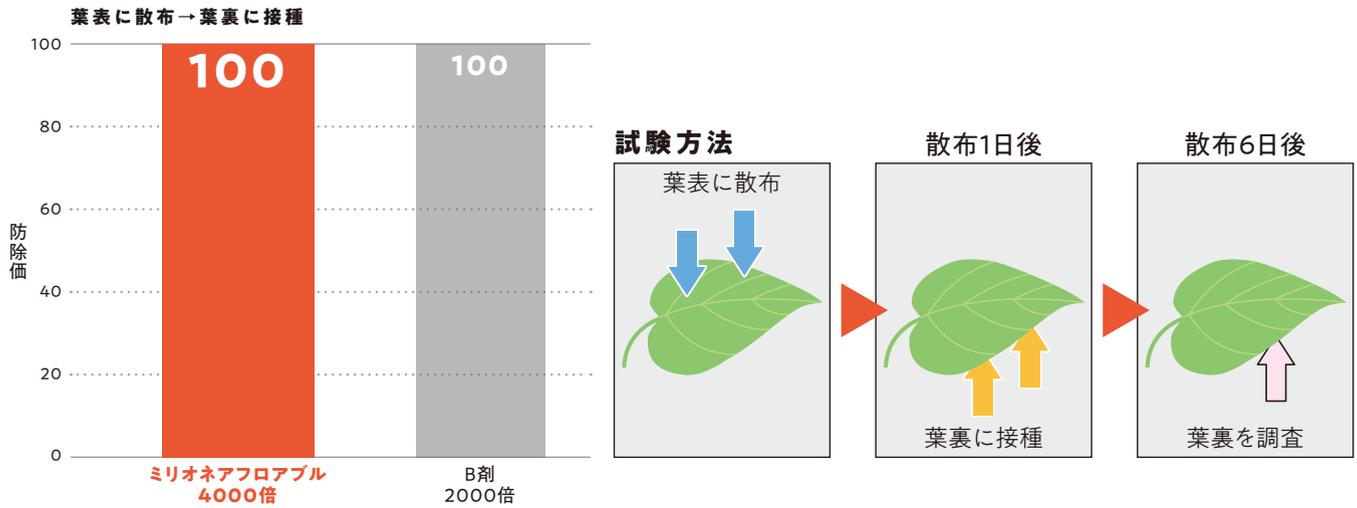
発病状況:無処理区の発病度73.3

➔ ミリオネア®フロアブルは散布後に降雨があっても、影響を受けにくい薬剤です。



浸達性(インゲンマメ 灰色かび病)

2020年 住友化学(株)健康・農業関連事業研究所(ポット試験)

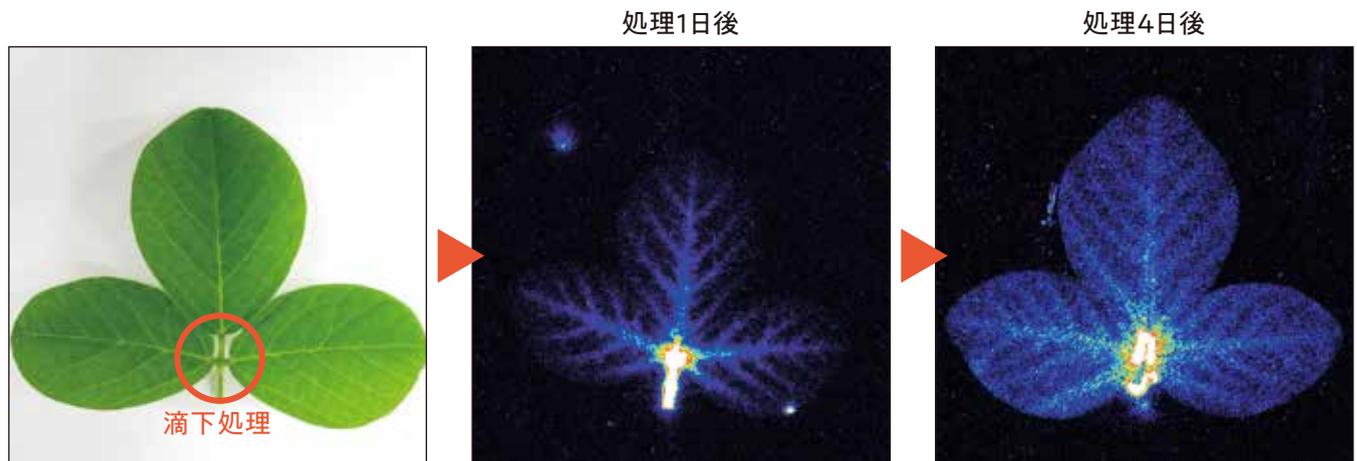


供試品種: サクサク王子
 区制・反復: 1区1株/ポット、計2ポット、1株あたり2カ所調査、計4反復
 処理日: 11/11
 接種日: 11/12
 調査日: 11/17
 処理方法: 所定濃度の薬液(展着剤シンダイン5000倍加用)を葉表に十分量散布した
 接種方法: 灰色かび菌の胞子含有ゲルを各初生葉の葉裏に貼り付けて接種、接種後は16~20℃の湿室条件下で管理した。
 調査方法: 葉裏の病斑半径を測定し、防除価を算出した。
 発病状況: 無処理区の病斑半径12.3mm

➔ ミリオネア®フロアブルは葉内を浸透し、葉の反対側でも効果を発揮します。

浸透移行性(ダイズ)

2017年 住友化学(株)健康・農業関連事業研究所



※光って見えている部分はインピルフルキサムを示す。

試験方法
 放射性同位体で標識したインピルフルキサム希釈液を葉の基部に滴下処理し、
 処理1日後、4日後に移行状況を観察した

➔ 有効成分(インピルフルキサム)は導管を通り、葉内を上方に移行します。

てんさい

適用病害と使用方法



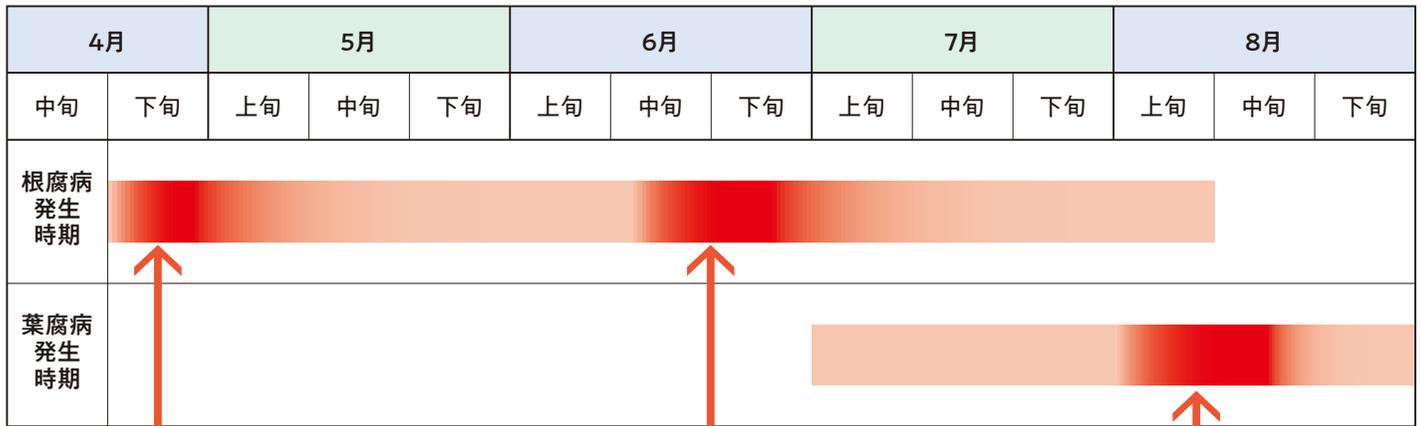
2021年3月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
てんさい	根腐病	800倍	1L/ペーパーポット1冊(3L/m ²)	定植前	1回	灌注	5回以内 (灌注は1回以内、 散布は4回以内)
		4000倍	100~300L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	
	葉腐病	4000倍					

作物名「てんさい」部分を抜粋

→ てんさいの根腐病・葉腐病に優れた効果があります。

上手な使い方



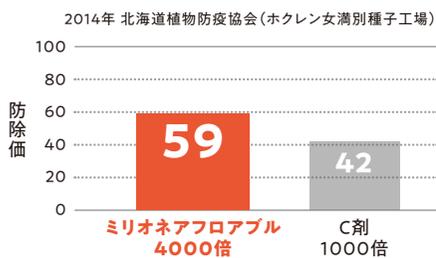
根腐病防除(定植前)

根腐病防除(生育期)

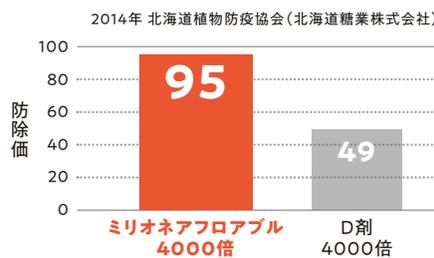
ミリオネア®フロアブル4000倍
(100~300L/10a 散布)

葉腐病防除

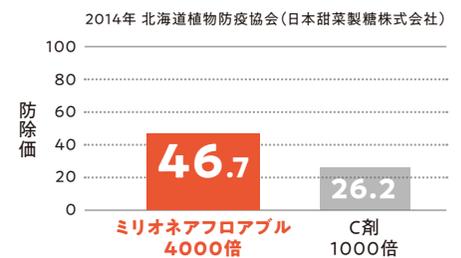
委託試験成績 テンサイ根腐病



供試品種: スタウト
 定植日: 5/22
 発生状況: 甚発生(接種)
 初発: 7月中旬
 区制・反復: 1区8.83m²、64株、3反復
 処理日: 7/8、24
 処理液量: 200L/10a
 調査日: 8/18(最終散布25日後)
 調査方法: 各区20株について、てん研法に基づき地下部(根)の病徴を調査し、発病度及び防除価を算出した。
 接種方法: 7/1にテンサイ根腐病菌の風乾含菌大麦粒を1株あたり2粒、根際1cmの深さに接種した。

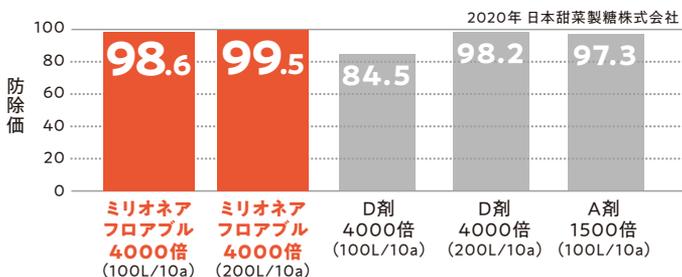


供試品種: クリスター
 定植日: 5/8
 発生状況: 甚発生(接種)
 初発: 7月上旬
 区制・反復: 1区9.22m²、64株、3反復
 処理日: 6/27、7/7
 処理液量: 200L/10a
 調査日: 7/29(最終散布22日後)
 調査方法: 各区24株について、てん研法に基づき地下部(根)の病徴を調査し、発病度及び防除価を算出した。
 接種方法: 6/23にテンサイ根腐病菌の風乾含菌大麦粒を株元へ0.2g/株の割合で散布し、1cmの深さへ埋設した。



供試品種: あままる
 定植日: 5/13
 発生状況: 甚発生(接種)
 初発: 6月下旬
 区制・反復: 1区11.0m²、76株、4反復
 処理日: 7/8
 処理液量: 200L/10a
 調査日: 7/24(散布16日後)
 調査方法: 各区30株について、てん研法に基づき地下部(根)の病徴を調査し、発病度及び防除価を算出した。
 接種方法: 6/25にテンサイ根腐病菌の風乾含菌大麦粒を株際3cmの位置に1粒(約0.33g/m²)を埋め込んで接種した。

テンサイ根腐病に対する効果



供試品種：ゆきまる
 定植日：5/2
 発生状況：甚発生(接種)
 初発：6/26
 区制・反復：1区10.6m²、72株、4反復
 処理日：6/26、7/9
 処理液量：100L/10aまたは200L/10a
 調査日：8/11(最終散布33日後)
 調査方法：各区30株について、てん研法に基づき地下部(根)の病徴を調査し、発病度及び防除価を算出した。
 接種方法：6/19に試験区の内2畦の38個体の株元片側に、含菌大麦粒を1粒ずつ(0.3g/m²)、株元から3cm、深さ1.5~2.0cm程度の位置に浅く埋め込んで接種した。



ミリオネアフロアブル 4000倍 (100L/10a)



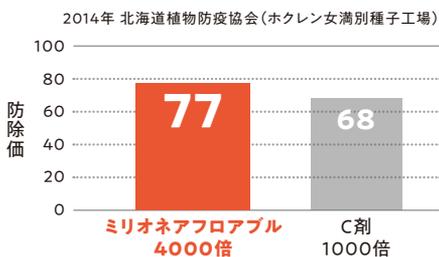
ミリオネアフロアブル 4000倍 (200L/10a)



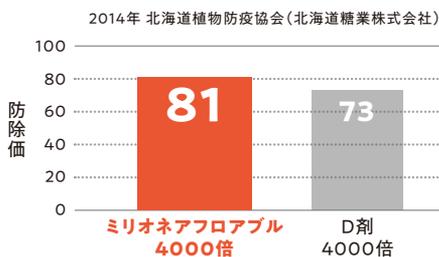
無処理

→ **ミリオネア®フロアブル4000倍は100L/10a散布、200L/10a散布とも高い効果を示しました。**

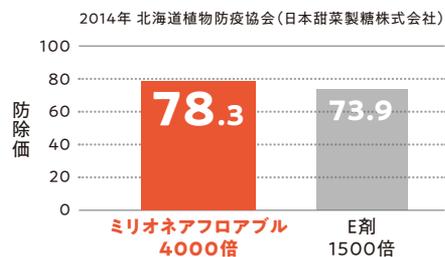
委託試験成績 テンサイ葉腐病



供試品種：スタウト
 定植日：5/22
 発生状況：少発生(接種)
 初発：8/6
 区制・反復：1区8.83m²、64株、3反復
 処理日：8/9、21、9/3(展着剤グラミンS 5000倍加用)
 処理液量：100L/10a
 調査日：9/18(最終散布15日後)
 調査方法：各区20株について、てん研法に基づき病徴を調査し、発病度及び防除価を算出した。
 接種方法：7/25にテンサイ葉腐病菌の風乾含菌大麦粒の粉碎物を1区あたり15g茎葉に散布した。



供試品種：クリスター
 定植日：5/8
 発生状況：少発生(接種)
 初発：8月上旬
 区制・反復：1区9.22m²、64株、3反復
 処理日：8/6、18、26、9/2(展着剤グラミン5000倍加用)
 処理液量：100L/10a
 調査日：9/9(最終散布7日後)
 調査方法：各区20株について、てん研法に基づき病徴を調査し、発病度及び防除価を算出した。
 接種方法：7/4にテンサイ根腐病菌の風乾含菌大麦粒を各区除外畦の両端2株に接種(0.5g/1株)し根腐病を発病させ、葉腐病の伝染源とした。その後、発生が少なかったため、8/25に風乾含菌大麦粒粉碎物を茎葉に散布(25g/区)した。



供試品種：ゆきまる
 定植日：5/13
 発生状況：少発生
 初発：8月中旬
 区制・反復：1区11.0m²、76株、4反復
 処理日：7/25、8/6、23(展着剤ラビデン3S 5000倍加用)
 処理液量：100L/10a
 調査日：9/18(最終散布26日後)
 調査方法：各区30株について、てん研法に基づき病徴を調査し、発病度及び防除価を算出した。

たまねぎ

適用病害と使用方法



2021年3月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
たまねぎ	灰色かび病、小菌核病	4000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
	灰色腐敗病	4000~8000倍					

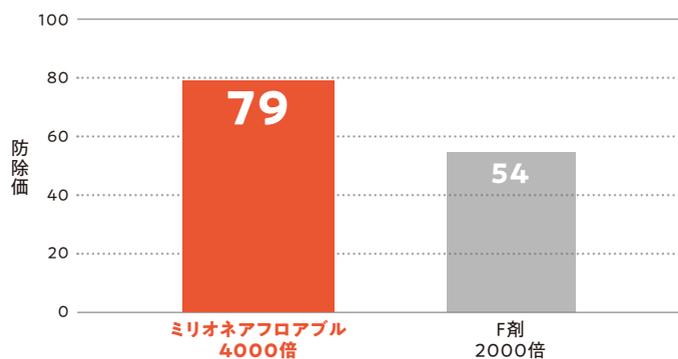
作物名「たまねぎ」部分を抜粋



- ・たまねぎの主要3病害(小菌核病、灰色かび病(白斑葉枯病)、灰色腐敗病)に登録があります。
- ・各病害に安定した効果を示します。
- ・ダブルインターバル(15日間隔)の試験でも優れた効果が確認されています。

委託試験成績 タマネギ灰色かび病(白斑葉枯病)

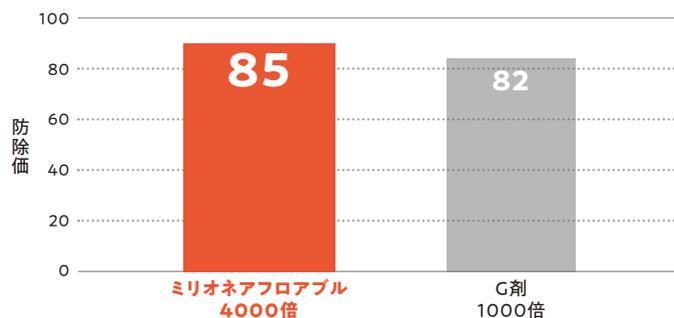
2016年 北海道立総合研究機構 中央農業試験場



供試品種：北もみじ2000
 定植日：4/25
 倒伏期：8/3
 発生状況：多発生
 初発：6/16
 区制・反復：1区6.6m²、3連制
 処理日：6/15、22、29、7/6、12、20(展着剤グラミンS3000倍加用)
 調査日：7/26(最終散布6日後)
 調査方法：1区25株について、1株あたり上位4葉の病斑面積率を調査し、防除値を算出した。

委託試験成績 タマネギ灰色かび病(白斑葉枯病) ダブルインターバル(15日間隔)試験

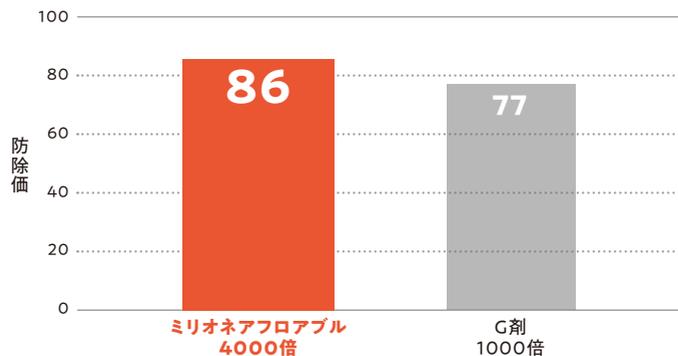
2020年 北海道立総合研究機構 中央農業試験場



供試品種：北もみじ2000
 定植日：4/30
 倒伏期：7/28
 発生状況：中発生
 初発：6/19
 区制・反復：1区6.48m²、3連制
 処理日：6/10、23、7/9(展着剤グラミンS 3333倍加用)
 調査日：7/22(最終散布13日後)
 調査方法：1区25株について1株あたり上位4葉の病斑面積率を調査し、防除値を算出した。

委託試験成績 タマネギ灰色腐敗病

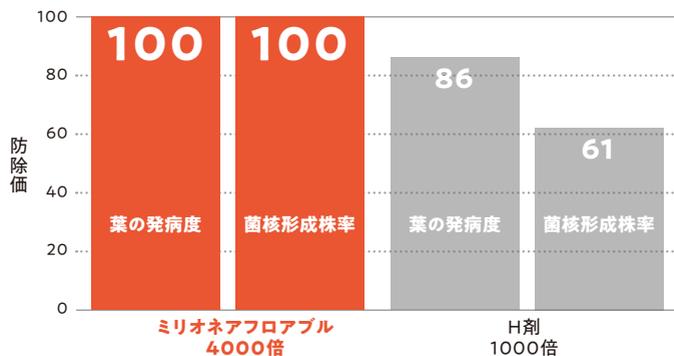
2015年 北海道立総合研究機構 花・野菜技術センター



供試品種：北もみじ2000
 定植日：5/19
 倒伏期：8/3
 発生状況：甚発生(接種)
 区制・反復：1区4.62m²、3連制
 処理日：7/17、27、8/4、13、22、9/1(展着剤グラミンS 3000倍加用)
 調査方法：9/8に収穫し、風乾後、9/25から5℃で貯蔵。2016/1/26に中間調査として球の外側から発病が分かるものを切断し発病確認。4/1に全球を切断して調査し、1/26と4/1の発病球数の合計から発病球率および防除値を算出した。
 接種方法：7/17、28、8/4、13、24に *Botrytis allii* と *Botrytis aclada* の分生子懸濁液(約5×10⁵ spores/mL)を等量混合し、100L/10a噴霧接種した。薬剤散布当日の接種は散布後7時間以上経過してから実施した。

委託試験成績 タマネギ小菌核病

2016年 北海道立総合研究機構 中央農業試験場



供試品種：北もみじ2000
 定植日：4/25
 倒伏期：8/3
 発生状況：少発生(接種)
 初発：6/26
 区制・反復：1区6.99m²、3連制
 処理日：6/6、16、23、7/1、11(展着剤グラミンS 5000倍加用)
 調査日：7/8(葉の発病度)、8/5(菌核形成株率)
 調査方法：7/8に各区50株について葉の発病程度別に調査し発病度を求め、防除値を算出した。8/5に各区50株について菌核形成株数を調査し、菌核形成株率および防除値を算出した。

こむぎ(麦類)

適用病害と使用方法



2021年3月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
麦類	雪腐小粒菌核病	2000~4000倍	60~150L/10a	根雪前	2回以内	散布	4回以内 (根雪前は2回以内、 根雪後は2回以内)
	赤さび病	4000~8000倍		収穫7日前まで			
	うどんこ病	4000倍					

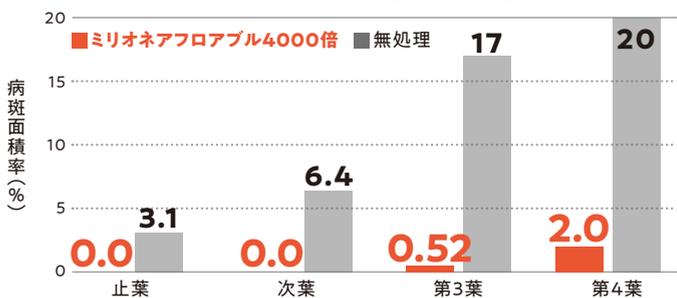
作物名「麦類」部分を抜粋

→ **こむぎの赤さび病に優れた効果があります。**

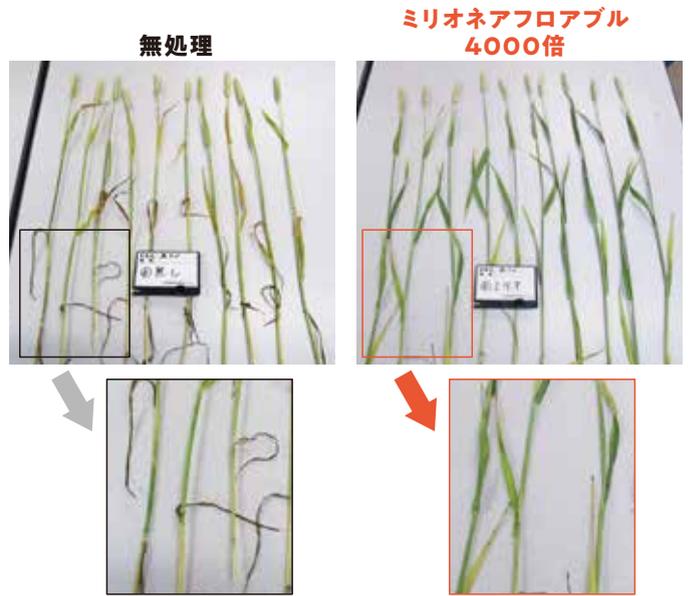
コムギ赤さび病に対する効果

止葉期処理による防除効果

2020年 北海道空知総合振興局 空知農業改良普及センター



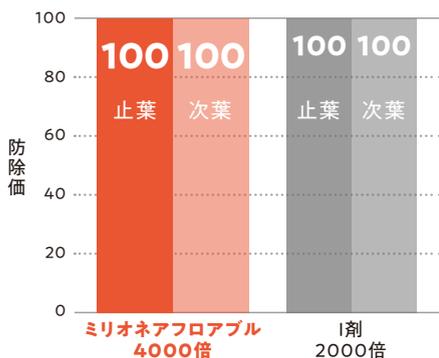
試験場所: 岩見沢市農業試験圃
 供試品種: きたほなみ
 播種: 2019/9/18(秋まき)
 発生状況: 中発生
 初発: 4/14
 区制・反復: 1区3.6m²
 処理日: 5/25(止葉期)
 調査日: 6/19(散布25日後)
 調査方法: 各区25茎について止葉、次葉、第3葉、第4葉の各病斑面積率を調査した。



→ **ミリオネア®フロアブル4000倍は、赤さび病に対し第3葉、第4葉まで高い効果を示しました。**

委託試験成績 コムギうどんこ病

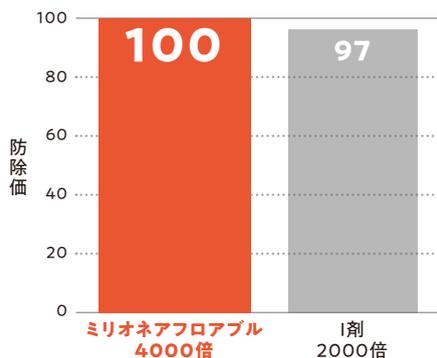
2017年 北海道植物防疫協会



供試品種: ハルコタカ
 播種: 4/25(春まき)
 発生状況: 中発生
 区制・反復: 1区12m²、3反復
 処理日: 6/23、30、7/7、14、23
 調査日: 7/30(最終散布7日後)
 調査方法: 1区25茎の止葉とその次葉について病斑面積率を調査し、防除価を算出した。

委託試験成績 コムギ雪腐褐色小粒菌核病

2015年 北海道植物防疫協会



供試品種: きたほなみ
 播種: 9/25(秋まき)
 発生状況: 中発生(接種)
 区制・反復: 1区10.5m²、3連制
 処理日: 11/13(展着剤グラミンS 5000倍加用)
 調査日: 2016/4/7(融雪1日後)
 調査方法: 各区圃場一面を調査し、葉・茎の枯死率から発病度を求め、防除価を算出した。
 接種方法: 11/16に病原菌を培養したエンバク粒を48mL/m²の割合で各区全畦のコムギ葉上に散布した。

委託試験成績 コムギ雪腐黒色小粒菌核病

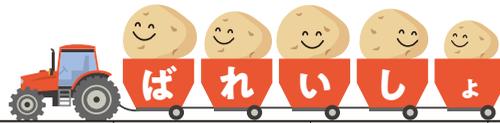
2014年 北海道植物防疫協会



供試品種: きたほなみ
 播種: 9/24(秋まき)
 発生状況: 多発生(接種)
 区制・反復: 1区12m²、3連制
 処理日: 11/11、25(展着剤グラミンS 5000倍加用)
 調査日: 2015/4/10(融雪4日後)
 調査方法: 各区圃場一面を調査し、葉・茎の枯死率から発病度を求め、防除価を算出した。
 接種方法: 11/11に薬剤散布後、病原菌を培養したエンバク粒を20mL/m²の割合で各区に散布した。

ばれいしょ

適用病害と使用方法



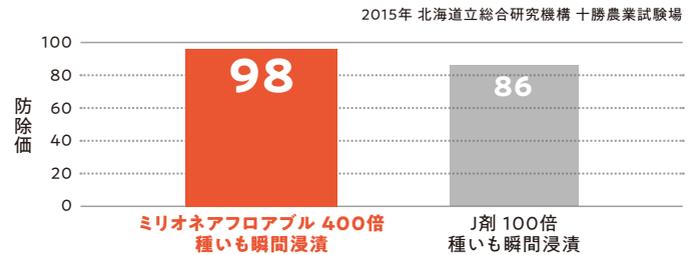
2021年3月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
ばれいしょ	黒あざ病	400倍	—	植付前	1回	種いも瞬間浸漬	1回

作物名「ばれいしょ」部分を抜粋

→ **ばれいしょの黒あざ病に高い効果があります。**

委託試験成績 バレイシヨ黒あざ病



供試品種：男爵薯
 植え付け日：5/14
 発生状況：甚発生（菌核付着塊茎を使用）
 区制・反復：1区6.72m²、24株、3反復
 処理日：4/30
 処理方法：所定濃度の薬液に未切断種いもを浸漬した。
 調査日：7/16（処理77日後）
 調査方法：各区24株についてストロンを発病程度別に調査し発病度を求め、防除値を算出した。

供試品種：とうや
 植え付け日：5/12
 発生状況：甚発生（菌核付着塊茎を使用）
 区制・反復：1区6.75m²、30株、3反復
 処理日：4/30
 処理方法：ネット袋に入れた種いもを所定量の薬液に瞬間浸漬した。
 調査日：7/16（処理77日後）
 調査方法：各区15株についてストロンを発病程度別に調査し発病度を求め、防除値を算出した。
 その他：菌核付着面積率約1%の種いもを供試した。

まめ類

適用病害と使用方法



2021年3月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
豆類（種実、ただし、らっかせいを除く）	菌核病 灰色かび病	4000倍	100~ 300L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
豆類（未成熟、ただし、さやえんどうを除く）							
さやえんどう	さび病						

作物名「豆類」部分を抜粋

→ **・豆類（種実※、未成熟）登録で、使いやすい。 ※ただし、らっかせいを除く**
・収穫前日まで使えます。
・灰色かび病、菌核病に安定した効果があります。

委託試験成績 アズキ灰色かび病



供試品種：京都大納言 施設栽培
 播種日：7/28
 発生状況：少発生
 区制・反復：1区4.2m²、30株、3連制
 処理日：9/9、17、24（展着剤グラミンS 5000倍加用）
 調査日：10/2（最終散布8日後）
 調査方法：各区30株について発病程度を莢毎に調査し発病度及び防除値を算出した。
 その他：散布日及び土日を除いて、毎日夕方に約30分かん水後、夜間はハウスサイドを締め切って発病を促した。

委託試験成績 アズキ菌核病



供試品種：京都大納言 施設栽培
 播種日：7/31
 発生状況：少発生（接種）
 区制・反復：1区5.2m²、30株、3連制
 処理日：9/7、14、24（展着剤グラミンS 5000倍加用）
 調査日：10/8（最終散布14日後）
 調査方法：各区30株について発病程度を株毎に調査し発病度及び防除値を算出した。
 接種方法：9/4に菌核を株間に適量散布した。散布日及び土日を除いて、毎日夕方に約30分かん水後、夜間はハウスサイドを締め切って発病を促した。

ねぎ

適用病害と使用方法



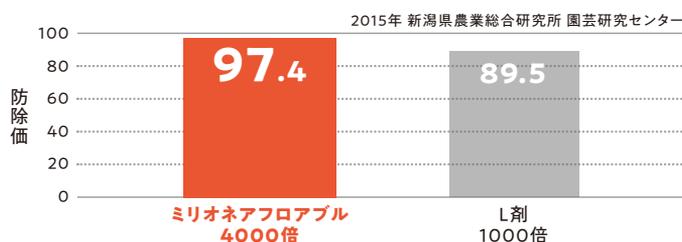
2021年3月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
ねぎ	さび病	4000~8000倍	100~300L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
	黒斑病	4000倍					
	白絹病	4000~8000倍				株元散布	
	黒腐菌核病	4000倍					

作物名「ねぎ」部分を抜粋

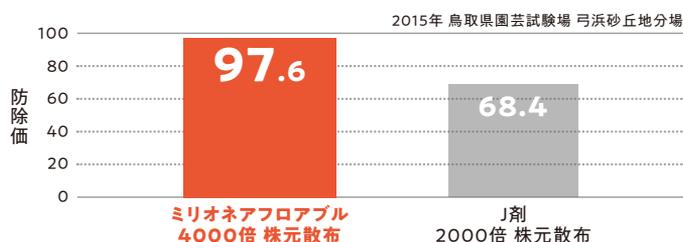
→ **ねぎのさび病に高い効果があり、黒腐菌核病、黒斑病に登録があります。**

委託試験成績 ネギさび病



供試品種：夏扇4号
 定植日：5/20
 発生状況：少発生
 初発：6月下旬
 区制・反復：1区4.4m²、200株、3反復
 処理日：7/27、8/3、10、19、26、9/2(展着剤ハイテンパワー5000倍加用)
 調査日：9/9(最終散布7日後)
 調査方法：各区100本について発病程度別に調査し発病度を求め、防除値を算出した。

委託試験成績 ネギ白絹病



供試品種：長悦
 定植日：2014/11/25
 発生状況：多発生
 区制・反復：1区5.0m²、約200株、3連制
 処理日：6/22(展着剤グラミンS 5000倍加用)
 調査日：7/28(散布36日後)
 調査方法：各処理区の1.5m²(約50株)を掘り取り、葉鞘部への菌核及び菌糸の着生株数を程度別に調査し、発病度及び防除値を算出した。

りんご・ぶどう

適用病害と使用方法



2021年3月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
りんご	黒星病、モニア病、うどんこ病、褐斑病、斑点落葉病、黒点病、すす点病、すす斑病	4000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	黒とう病、褐斑病、うどんこ病、さび病	4000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	灰色かび病	4000~8000倍					

作物名「りんご、ぶどう」部分を抜粋

→ **りんごの黒星病に高い効果があります。**
ぶどうの灰色かび病、黒とう病、褐斑病等に登録があります。

委託試験成績 リンゴ黒星病



供試品種：ふじ/マルバカイドウ 20年生
 発生状況：中発生
 区制・反復：1区1樹、3反復
 処理日：5/1(開花直前)、13(落花直後)、26(落花15日後頃)(展着剤マイリノー 10000倍加用)
 調査日：6/15(最終散布20日後)
 調査方法：1樹あたり20本の新梢全葉について程度別に発病状況を調査して発病度を求め、防除値を算出した。同日、各区150果の発病状況を調査し発病果率を求め、防除値を算出した。

委託試験成績 ブドウ灰色かび病



供試品種：キャンベル・アーリー 41年生 露地栽培
 発生状況：中発生
 区制・反復：1区2樹、3連制
 処理日：5/23(新梢伸長期)、6/6(開花直前)
 調査日：6/17(落花期、最終散布11日後)
 調査方法：1区あたり100果穂について発病程度別に調査し発病度を求め、防除値を算出した。

北海道畑作農家のたまたてばこ

ミリオネア®フロアブル



畑作用殺菌剤 有効成分：インピルフルキサム…37.0%

ミリオネアは住友化学(株)の登録商標です

適用病害と使用方法

2021年3月現在

作物名	適用病害名	希釈倍数	使用液量	使用時期	本剤の使用回数	使用方法	インピルフルキサムを含む農薬の総使用回数
麦類	雪腐小粒菌核病	2000~4000倍	60~150 L/10a	根雪前	2回以内	散布	4回以内 (根雪前は2回以内、根雪後は2回以内)
	赤さび病	4000~8000倍		収穫7日前まで			
	うどんこ病	4000倍					
豆類 (種実、ただし、らっかせいを除く)	菌核病、灰色かび病	4000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
豆類 (未成熟、ただし、さやえんどうを除く)							
さやえんどう							
	さび病						
ばれいしょ	黒あざ病	400倍	—	植付前	1回	種いも瞬間浸漬	1回
てんさい	根腐病	800倍	1L/ペーパーポット1冊(3L/m ²)	定植前	1回	灌注	5回以内 (灌注は1回以内、散布は4回以内)
		4000倍					
	葉腐病	4000倍	100~300 L/10a	収穫7日前まで	4回以内	散布	
たまねぎ	灰色かび病、小菌核病	4000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
	灰色腐敗病	4000~8000倍					
ねぎ	さび病	4000~8000倍	100~300 L/10a	収穫前日まで	4回以内	散布	4回以内
	黒斑病	4000倍					
	白絹病	4000~8000倍				株元散布	
	黒腐菌核病	4000倍					
りんご	黒星病、モニリア病、うどんこ病、褐斑病、斑点落葉病、黒点病、すす点病、すす斑病	4000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
ぶどう	黒とう病、褐斑病、うどんこ病、さび病	4000倍	200~700 L/10a	収穫前日まで	3回以内	散布	3回以内
	灰色かび病	4000~8000倍					

使用上の注意事項

- 使用前によく振ってから使用してください。
- 使用量に合わせ薬液を調製し、使いきってください。
- 散布量は対象作物の生育段階、栽培形態及び散布方法に合わせて調節してください。
- 散布液調製後はそのまま放置せず、できるだけ速やかに散布してください。
- 適用作物群に属する作物又はその新品種に本剤を初めて使用する場合は、使用者の責任において事前に薬害の有無を十分確認してから使用してください。なお、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 蜜に対して影響があるので、周辺の桑葉にはかからないようにしてください。かかった場合3日間は給桑しないでください。
- 本剤の使用に当たっては、使用量、使用時期、使用方法等を誤らないように注意し、特に初めて使用する場合には、病虫害防除所等関係機関の指導を受けることが望ましい。
- 誤って飲み込んだ場合には吐き出させ、直ちに医師の手当を受けさせてください。本剤使用中に身体に異常を感じた場合には直ちに医師の手当を受けてください。

- 使用の際は防護マスク、不浸透性手袋、長ズボン・長袖の作業衣などを着用してください。作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをしてください。
- 施設内で使用する場合、窓等を開放し十分に換気してから施設内に立ち入ってください。
- 水産動植物(魚類)に影響を及ぼすおそれがあるので、河川、養殖池等に飛散、流入しないよう注意して使用してください。
- 使用残りの薬液が生じないように調製を行い、使いきってください。散布器具及び容器の洗浄水は、河川等に流さないでください。また、空容器等は水産動植物に影響を与えないよう適切に処理してください。
- 直射日光を避け、食品と区別して、鍵のかかるなるべく低温な場所に密栓して保管してください。

- 使用前にはラベルをよく読んでください。●ラベルの記載以外には使用しないでください。●小児の手の届く所には置かないでください。●空容器は圃場等に放置せず適切に処理してください。

